

令和 8 年 7 月 27 日(月)
しなやかに生きる子ども

3 学年 特別活動

「夏休みまで ねば〜ギブアップ!」

『友だちだれとでも』を高くするために、自分からたくさん声を掛けたいな。」

特別活動では、個人や学級の課題を自分事として捉え、集団で協力し、課題解決のために話し合ったり、学級や個人でできることを考え、実行したりするサイクルを通して、自分や学級がよりよくなっていくことを実感できる学びを目指します。

学級目標「きあいなっとう」の 7 つの文字に込められた各目標を事前アンケート結果で振り返り、現段階の学級での到達度を確認しました。「やっぱりきりかえはできているよね。」「友だち誰とでもって、みんなも難しいと思っているんだ。」とこれまでの学校生活の場面を想起することで、学級の課題を自分事として捉えました。その上で、班や学級全体で、到達度が低い目標をもっとよくするにはどうすればよいかを考え、話し合う姿が見られました。

私たちは、自分の意思をもって粘り強く学ぶ力強さと仲間の考えを受け入れながら学んでいく柔軟さを兼ね備えた「しなやかに生きる子ども」を育みます。そのために、他者とつながり合い、“うれしい”を見いだす学びを大切にしていきます。多様な個を認め、高め合いながら学べるように「教材化」「教師の立ち位置」の二つの視点から、子ども一人一人を大切にした授業の在り方を探っていきます。

特別活動 3年「夏休みまでねば〜ギブアップ!」より

視点1

多様な個が生きる教材化

本単元では、学級目標の「きあいなっとう」の各目標到達度を振り返る事前アンケートをランキング形式で掲示しました。これを基に自分や学級全体の頑張りの課題について考え、これからの学校生活で意識して取り組みたい目標を決める活動を設定しました。

事前アンケートでは、目標の到達度を星の数で表したり、評価基準を明確したりすることで、どの児童でも自己評価がしやすいようにしました。また、到達度を数値化することで、自分の頑張りがクラスの到達度に貢献していることを実感したり、到達度が低かった目標を把握したりしやすくなりました。

班で改善策を考える活動の際には、考える目標が7つと多かったため、話がまとまらなかったり、個々での活動になってしまったりして、つながり合う姿があまり見られなかったため、考える課題を絞る必要がありました。



見方・考え方を働かせるための教師の立ち位置

視点2



学級の到達度が低かった目標を自分事として捉えて、高めるために具体的な改善策を考えることができるように教師は二つの立ち位置をとりました。

一つ目は、「意図的に子どもの考えを広げる」立ち位置です。事前アンケートの結果で到達度が低かった原因を探る際に、実際に低いと振り返った児童にその理由を問い、学級に広げていきました。全体でその悩みや難しさを共感することで、具体的な改善策を考えることができました。

二つ目は、「意思決定の視点を与える」立ち位置です。本時の最後に、これから自分が頑張る目標を決める際に、①学級の到達度が低いものを上げる②学級の到達度が高いものを継続する③自分の到達度が低いものを上げるという三つの視点を与えることで、自分で決めた目標を頑張ることで、学級全体の目標の到達度を高め、クラスの一員として自己有用感を高められるようにしました。